

無線LANブロードバンドルーター6製品比較 いまから買うなら絶対 IEEE 802.11a/b/g対応

無線LANとブロードバンドルーターのオールインワン化が進んでいる。一体化によってコストパフォーマンスの高い製品が増え、安価かつ手軽にブロードバンドと無線LANを一気に導入できる環境が整ってきた。今回は、無線LAN、ルーターそれぞれの機能にスポットをあてて、製品選びのポイントを解説する。

text = 梅垣まさひろ

無線LAN & ブロードバンドを 欲張りに導入したい そんなときのシンプルな選択肢

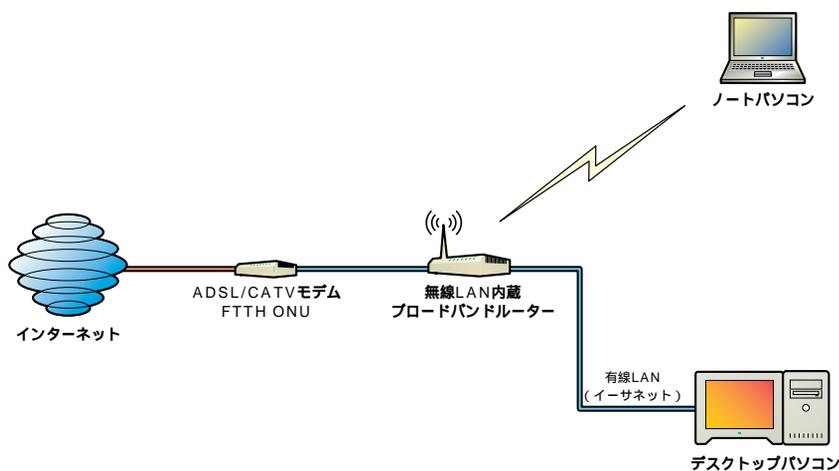
簡単スマートにブロードバンドをワイヤレス化
FTTHやADSL、CATVなどのブロードバンドをこれから導入するユーザーが、あるいは導入済みだがパソコン1台で使っているユーザーが、複数のパソコンからインターネットにアクセスしたいときに便利なのがブロードバンドルーターだ。

ブロードバンドルーターを購入すると、ルーターがブロードバンド接続をすべて管理してくれるので、パソコン側で接続したり切断したりというわずらわしさから解放されるし、パソコンにグローバルIPアドレスが割り当てられないのでセキュリティが圧倒的に向上する。また、フレッツなどのPPPoEを用いた接続では、ルーターを経

由したほうが速度が向上する場合が多い。パソコンが1台しかない場合でも、ブロードバンドルーターの利用は大きなメリットとなるのである。このような背景のもと、ブロードバンドルーターは急速に普及しており、価格も実売で1万円を切る安価な製品が多数発売されている。

しかしここに来て、パソコンとの間を無線LANでつなぐブロードバンドルーターが増加の傾向にある。というのも、日本では無線LAN機能を持ったノートパソコンが普及しているという土壌があるからだ。また、部屋から部屋へLANケーブルを配線すると、美観を損ねたり、パソコンなどの配置に制限があったりすることも多い。特に、1階から2階へと階をまたいで配線を延ばすのはなかなか大変な作業になる。また、LANケーブルにはホコリがたまりやすく、壁紙を汚す原因にもなりかねない。ネット対応住宅ならばこんな問題も起きないが、その数はまだまだ少ない。そこで、ブロードバンドルーターと無線LANを一体化にしたオールインワンの機器が増えているというわけだ。

たいがいの製品では、4ポートハブも内蔵されているので、これ1台でブロードバンドのあらゆることに対応できる。特に、最近ではパソコンだけでなくゲーム機やDVD/HDDレコーダーなどの家電のネット対応も進んでいる。テレビのある居間までLANをきれいに配線するにはそれなりに大変だ。そんな場合にも、無線LANをうまく生かした使い方がオススメなのである。



無線LAN内蔵ブロードバンドルーターには無線LAN機能と有線LANケーブルの接続口があるので、無線LAN機能を持たないデスクトップパソコンなどはLANケーブルで接続できる。

無線LAN内蔵ルーターは 無線規格とセキュリティで選べ

すでにブロードバンドルーターの主流になりつつある無線LAN対応ルーターだが、どの製品を選べばいいのだろうか。後悔しない製品選びのためのポイントを、ルーターの機能と無線LAN機能のそれぞれから紹介しよう。

POINT 1 ルーター セキュリティと信頼性を重視して選ぶ

以前はスループットを重視して選ぶケースが多かったが、すでにどのメーカーのルーターもスループットは限界の100Mbpsに迫っている。これからはセキュリティ機能を重視したい。その第一は、ステートフルパケットインスペクション(SPI)機能だ。SPIは、これまでのルーターが備えていたようなIPパケットの静的なフィルタではなく、より動的に攻撃からネットワークを守るファイアウォールの機能である。比較的安全と言われる、NATでアドレス変換をしている環境でも、SPIでいっそう安心して使えることは間違いない。また、メーカーの実績も重要だ。ルーターは電源を入れっぱなしで使うものだから、連続使用してもハングアップしたり調子が悪くなったりしない実績のあるメーカーを選びたい。

POINT 2 ルーター 機能は家庭 / オフィスの視点で選ぶ

家庭内での使用だが、会社のVPNサーバーも

使いたい場合はVPNパススルー機能が必要だ。また、ネット対応ゲームも簡単に設定できる機能も便利だ。自宅にサーバーを置いて外部から利用する場合には、DMZ機能、静的IPマスカレード、仮想サーバー機能、ダイナミックDNS対応があると便利だ。

オフィス用途では、社内LANにつなぐためにNAT機能を禁止してローカルルーターにできる機能が欲しい。ルーター機能を停止できる機種ならば、単なる無線LANアクセスポイントとして使いまわすことも可能だ。再利用も考慮して機能を検討しよう。

POINT 3 無線LAN 802.11aとb/gを同時に使えるか

現在の無線LANの多くは802.11aか802.11b/gに対応している。802.11aは、gに比べて1割程度速度が速いが、その分電波が遠くに届きにくく屋外では使えない。802.11gは以前主流だった802.11bと互換性があるため、古いカードでも使えるといったメリットがある。

今なら802.11a/b/gの3規格に対応した製品を選ぶことになるが、aとb/gを「同時に使える」のが「切り替え」で使うのはチェックしたい。同時利用が可能なものを選べば、たとえば2台のパソコンで無線LANを使っても片方は802.11aに、もう1つは802.11gに設定しておくことで、それぞれ無線LANの最大スピードで

通信できる。1台の無線LANルーターで実質2倍のチャンネルを確保できるわけだ。

なお、無線LANカードは切り替え式が基本となるので、同時利用が可能かどうかはアクセスポイントや無線LAN内蔵ルーターでの検討項目になる。

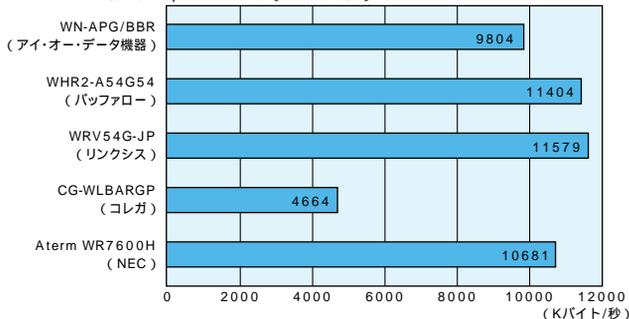
POINT 4 無線LAN セキュリティと高速化技術もチェック

忘れてはいけないのが、無線LANの通信が筒抜けにならないためのセキュリティだ。家庭内で利用するのであれば、WEP128ビット暗号化があれば十分だ。WPAに対応したものであればより安心だ(ただしウィンドウズXPでしか利用できない)。オフィスの場合は、これに加えて802.1x認証ができる機種を選ぶと完璧だ。ただし、RADIUSサーバーが使えないと意味がないので、その場合はWEP128ビットやWPAで十分だろう。

また、最近無線LANを独自に高速化する技術が出てきている。代表的なものが、米アセロスコミュニケーションズが開発したIEEE 802.11a/g向けの通信速度高速化技術「Super A/G」だ。独自規格でアクセスポイントやルーター、無線LANカードのすべての機器が対応している必要があるが、データ圧縮を用いて実効スループットで最大35Mbpsまで高速化する技術だ。通信速度が倍になるわけではないが、少しでも高速化できるメリットは見逃せない。

スループット性能の評価結果

インターネット接続のftpスループット(Kバイト/秒)



無線LANのftpスループット(Kバイト/秒)



インターネット接続のスループット(LAN-WAN間、いわゆるルータースループット)と無線LANのスループットをウィンドウズXPのftpコマンドを使って測定した。測定には80Mバイトのバイナリーデータを用いた。測定値は、5回づつput/getしたものを平均した値だ。メーカーによる差はあるが、光の回線でも十分な性能だ。PCWA-AR800は試作機のためには測定していない。Aterm WR7600Hは端末が無線LANコンバーターだったために無線LANのスループットを測定していない。

a/b/g対応を中心に 無線LANとルーターの機能と特徴を 徹底検証

WN-APG/BBR-S

アイ・オー・データ機器  <http://www.iodata.jp/prod/network/wlan/2003/wn-apgbb/>

価格：27,500円 無線LANルーター単体：21,000円 無線LANアダプター単体：7,500円

WN-APG/BBR-Sは、802.11a+b/g対応の無線LAN内蔵ルーター「WN-APG/BBR」とPCカードタイプの無線LANアダプター「WN-AG/CB2」のセットモデルだ。下位モデル「WN-AG/BBR」からの最も大きな変更は、WPAへの対応などのセキュリティ機能、それとケースの色が白からメタリックシルバーに変わった点だ。カードのほうも同時にWPAに対応して、Wi-Fiマークがついた。

このルーターの内蔵する無線LANは、802.11aとb/gを同時に使用できる完全デュアル対応である。デュアル対応機は徐々に増えてはきたが、同時に使えるものはまだ多くはない。2つの電波を干渉することなく同時に使えるため、実質的に倍の帯域幅を確保できることになる。無線LANを搭載したパソコンが多いオフィスや、家庭内でもネット家電でストリーミングする場合などにこの同時使用が生きてくる。

無線のセキュリティ面では、新たにWPAに対応したことで堅牢な暗号化が実現して、ルーターにもSPIによるファイアウォール機能を搭載するなど、安心して使える機能が豊富だ。しかもオフィスでも使える802.1x認証にも対応する。本来は家庭向けの無線LAN内蔵ルーターだが、これだけのスペックがあれば、オフィスでも十分に活躍できるだろう。

また、ルーター機能を停止してシンプルに無線LANのアクセスポイントとして、あるいはローカルルーターとして使うことも簡単なので、ネットワーク構成の変化にも柔軟に対応できる。設定にはウェブブラウザを使う。設定画面は洗練されていて、個々の設定が非常にわかりやすい。また、簡単に設定できる「ルータ設定ウィザード」が用意されているので、初心者でも苦もなく設定できるだろう。

この製品で特にいいのが、無線LANカードのユーティリティ「I-O DATA クイックコネクト」だ。電波や接続の状態をひと目で確認したり、アクセスポイントを探し出して設定を保存したりできる「プロファイル切り替え」の機能が非常に便利なのだ。会社、自宅、ホットスポットで無線LANを切り替えて使用するユーザーにはこのユーティリティの使い勝手のよさがうれしいだろう。家庭用にはもちろんだが、オフィスでも大活躍する無線LAN内蔵ルーターである(仕様詳細は記事末の表を参照)

シルバーになったケース。アンテナは自由な方向に傾けられる。LEDの色はややドギツイ感じが否めない。



上からLANポート×4、WANポート、リセットスイッチ、電源が並ぶ。縦置きでも壁掛けでもOKだ。



無線LANの設定画面。WEPのほかに、WPA、802.1xなどの設定ができる。画面左下にウィザードの項目がある。



タスクトレイのアイコンで、簡単に接続先の変更ができる。802.11aとgの変更、接続先の切り替えも、ワンアクションで可能だ。



「I-O DATA クイックコネクト」の画面。発見したアクセスポイントを一覧できて、簡単に設定できる。

WHR2-A54G54/P

バッファロー [URL](http://buffalo.melcoinc.co.jp/products/catalog/item/w/whr2-a54g54_p/) http://buffalo.melcoinc.co.jp/products/catalog/item/w/whr2-a54g54_p/

価格：34,800円 無線LANルーター単体：27,800円 無線LANアダプター単体：9,100円

バッファローのWHR2-A54G54/Pは、802.11a+b/g対応の無線LAN内蔵ルーター「WHR2-A54G54」と無線LANカード「WLI-CB-AG54」のセットである。無線LANの老舗らしく、家庭用ながらも非常に豊富な機能と拡張性を持っていて、SOHOや業務用でも十分に使える製品になっている。同社にはプロ向けの製品群であるAirStation Proシリーズがあるが、本格的かつ大規模な無線LANでなければこのWHR2-A54G54でも十分だ。

特筆すべきは、まず802.11aと802.11b/gが同時に利用できる点だ。たとえば、DVD/HDDレコーダーなどのネット対応家電を無線にする場合、パソコン用には802.11gを、家電用には802.11aをという具合に使い分けられる。また、アクセスポイント間で通信する機能があるので、802.11aをその用途に使い、802.11b/gを無線LANの通常の通信に使える。オフィスで複数のアクセスポイントを使って無線LANエリアを広げるときなどに威力を発揮する。

セキュリティ面も非常に強力だ。無線LANでは、WEP暗号化に加えてTKIP・AES暗号化をサポートしていて、無線接続のパソコン同士の通信を禁止できる。ルーター機能でも、DoS、ポートスキャン、SYN floodなどの攻撃を検出できて、IPパケットやポートのフィルターも装備している。家庭内の利用ならここまで必要ない



インストール画面がこれ。ドライバーなどのインストールに加えて、簡単導入ムービーなどの豊富なマニュアル類が提供されていて安心だ。

が、ビジネス用途でIPマスカレードなどを利用してLAN内のサーバーに外部からアクセスできるように設定する場合などには頼もしく感じられるだろう。

複数のルーターをつないで使う場合にIPアドレスを節約できるIP Unnumberedに対応しているのも、固定IPなどを使う上級ユーザーをもこのルーターのターゲットとして考えていることの証だ。外部アンテナが豊富に用意されている点も注目だ。最上部のスライド蓋を開けると、外部アンテナ端子が現れる。ここには上下に「ツメ」が2つあり、外部アンテナのケーブルを引っ掛けられる。家庭内で使う無線LAN内蔵の高機能なブロードバンドルーターとして、またオフィス用無線LANルーターとしても幅広く使える、応用力の高い製品と言えるだろう(仕様詳細は記事末の表を参照)。

アンテナ内蔵で白が基調のデザインだ。上部のグリーンのパネルがアクセント。LEDは半透明のパネル越しのやさしい光だ。無線LANカードは半透明でアンテナ部分が見えるめずらしいものだが、コンパクトで扱いやすい。



LANポート×4、WANポート、電源が並ぶ。



無線LANの設定画面。802.11aとgがおのおの設定できる。無線出力を下げずに不要に電波が漏れるのを防いだり、無線LAN同士の通信を禁止したりできる。

無線LANカードの接続を管理する「クライアントマネージャ」画面。相手はAirStationシリーズのアクセスポイントなら、ウェブ設定画面を表示することも可能だ。



WRV54G-JP

リンクシス [URL http://www.linksys.co.jp/product/wireless/g/wrv54g/wrv54g.html](http://www.linksys.co.jp/product/wireless/g/wrv54g/wrv54g.html)

実売価格：24,800円

リンクシスの無線LANは日本ではメジャーな存在とは言えないが、ワールドワイドではトップクラスの実績を持つ。「WRV54G-JP」は、同社の無線LANとVPNに対応した高性能ブロードバンドルーターである。業務用として使うための機能が豊富であり、セキュリティを重視するSOHOやオフィスで使うのに最適なため、対応規格は802.11b/gのみだが、今回は特別に取り上げた。WEP暗号化に加えて、802.1x認証やステートフルパケットインスペクション(SPI)によるファイアウォール、パケットフィルタなど、ネットワークのセキュリティ管理に欲しい機能が満載だ。もちろん、本機はVPNが内蔵されている点が最大の特徴であり、インターネットからVPN接続を使って社内のサーバーにアクセスす

るといった使い方をするためのルーターだと考えたほうが良い。家の中から普通にインターネットにアクセスするのに使うには、ややオーバースペックと言えるだろう(仕様詳細は記事末の表を参照)。



ウェブ設定の基本画面。プロ指向の詳細な設定画面が用意されている。



ファイアウォールだけでなく、ActiveXやJavaのフィルターも用意されている。オフィスのセキュリティ管理に最適だ。



ややごつい感じのシルバーの筐体。縦置き、横置きとも可能だ。これ1台で無線LAN、VPN、ルーターの3つの機能が使えると考えれば、非常にコンパクトと言えるだろう。背面にはWANポート、LANポート×4、電源コネクタが整然と並んでいる。

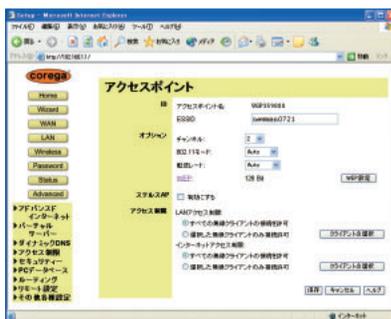
CG-WLBARGP-P

コレガ [URL http://www.corega.co.jp/product/list/router/wlbargp-p.htm](http://www.corega.co.jp/product/list/router/wlbargp-p.htm)

価格：17,800円 無線LANルーター単体：13,500円 無線LANアダプター単体：9,000円

CG-WLBARGP-Pは802.11b/g対応の無線LANルーター「CG-WLBARGP」と無線LANカード「WLCB-54GT」のセットモデルである。実売価格で13,000円程度と、カードを同梱した802.11b/g対応の無線対応ルーターとしては非常に高いコストパフォーマンスを誇る。小さなブラックのケースが特徴的で、アンテナがなければハブかと思ふコンパクトさだ。設定は、ウェブブラウザを用いて行うが、非常にシンプルなウィザード形式の設定画面が用意されている。セキュリティへの対応は、無線ではWEP64/128ビット暗号化、アクセスポイントを隠すステルスAPなどを備え、ルーターもDoS攻撃を検出できるファイアウォール機能を備えている。また、指定したURLへのアクセスが制限できるURLフィルタ機能がある。家のプ

ロードバンドと無線LANをコンパクトかつ安価に実現するのに最適な無線LAN内蔵ルーターである(仕様詳細は記事末の表を参照)。



ウェブ設定画面がこれ。「Advanced」にセキュリティ対応機能やゲーム対応などの設定がある。



非常にコンパクトな黒いケースだ。放熱をよくするためにメタル製で、若干重く感じる気になるほどではない。無線LANカードはアンテナ部が薄く、カードスロットに別のカードを挿しても邪魔しない。背面には上から、アンテナ、init(初期化スイッチ)、WANポート、LANポート×4、電源コネクタが並ぶ。



無線LANカードのユーティリティは、ごく基本的な内容だ。アクセスポイントの管理など、もう少し機能が欲しいところだ。

PCWA-AR800 + PCWA-C800S ソニー

URL <http://www.sony.jp/products/Consumer/wireless/products/>

実売価格：26,800円(PCWA-AR800) 9,800円(PCWA-C800S)

ソニー VAIOシリーズ無線LANの新製品だ。「PCWA-AR800」が802.11aとb/gを切り替えて使う無線LAN対応ルーター、「PCWAC800S」が802.11a/b/g対応の無線LANカードだ。このルーターの特徴は、ルーター部と無線アクセスポイント部が分離されている点だ。他のオールインワンタイプの欠点として、アンテナを高い位置に設置できないという問題があるが、このルーターでは無線LANのアクセスポイントは電波の届きやすい所に、ルーターはケーブルが取り回しやすく置きやすい場所にと、離して設置できる。機能面では、他社に比べてややシンプルな印象だが、家庭内で使う無線LAN、ルーターの機能としては十分だ。なお、バージョンアップで無線LANを高速化する技術「Super A/Gモ

ード」への対応を予定している。かっこいいデザインとスマートな設置を望む人、特にバイオユーザーにはオススメの無線LAN内蔵ルーターだ(仕様詳細は記事末の表を参照)。



ルーターの設定画面は、本体の白いデザインと統一された白いシンプルなものだ。

802.11aを使うのかb/gを使うのかをアクセスポイントの設定で切り替える。



白いLED表示がかっこいいアクセスポイント(右上)ルーター部から給電されるので、ケーブル1本だけ。ルーター本体(左上)にはLANポートが4つあり、そのうち2ポートにアクセスポイントを接続できる。こちらも白いLED表示が美しい。無線LANカードはアンテナ部分がユニークでとても小さく、おそらくa+b/g対応カードでは最小の出っ張りだろう。



Aterm WR7600Hワイヤレスセット(TE) NEC

URL <http://121ware.com/product/atermstation/product/>

実売価格：27,800円 無線LANルーター単体：18,800円 無線LANコンバーター単体：12,800円

Aterm WR7600Hワイヤレスセット(TE)は、802.11a+b/g対応の無線LAN内蔵ルーター「Aterm WR7600H」と、有線LANを無線にする無線子機「Aterm WL54TE」のセットだ。Atermシリーズは設定がこれでもかというほど親切なのが特徴だ。他社のルーターの大半はブラウザでの設定が前提だが、このシリーズは専用のウィザードを使ってすべて設定できる。また、初心者向けの機種なのに機能がこれまた豊富なも泣かせる。セキュリティ対応では、WEP暗号化152ビット、WPAへの対応など、ウェブブラウザ設定で確認すると多数の機能が使えることがわかる。またSuper A/Gを使った無線LANの高速化も可能だ。WL54TEは有線LANしかない機器を無線化するための無線LANコンバーターで、デスクトップパソコンやネット

対応のゲーム機、家電などで用いるものだ。初心者にはやさしく、しかもパワーユーザーにも満足できるルーターである(仕様詳細は記事末の表を参照)。

「らくらくウィザード」の画面。アクセスポイントの設定から、イーサネットタイプ子機、無線LANカードの設定まで至れり尽くせりのサポートをしてくれる。初心者でも安心だ。



薄型の白い筐体だ。アンテナは内蔵されているので設置場所を選ばない。

有線LAN対応機器を無線化するアダプター。有線LANのポートが2つあるので、同時に2台接続できる。



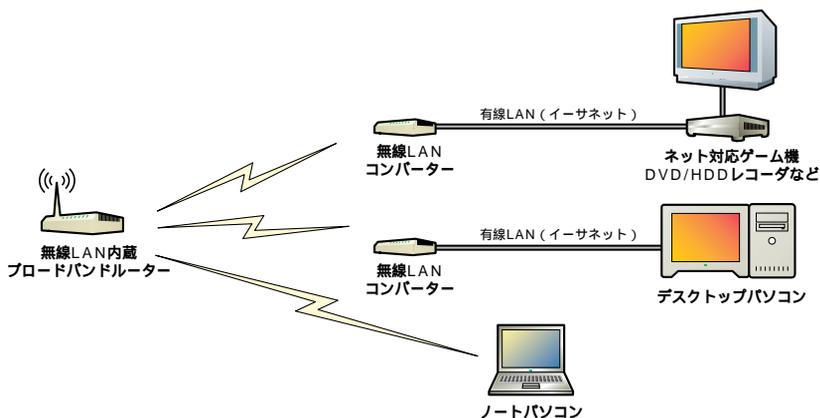
WL54TE設定中の画面。親機(WR7600H)と子機(WL54TE)をまとめて設定できる。最初からWEP暗号化キーが設定されていて安心だ。

ネット対応ゲーム機や デスクトップまでも無線化する 無線LANコンバーターを活用しよう

無線LAN環境を有効利用 ノートパソコン専用ではもったいない

プレイステーションやDVD/HDDレコーダーなどネット対応家電で困るのがLANの配線だ。ルーターを設置する場所は多くは回線を引き込む配電盤や電話機の近くなので、家電のある居間までLANの配線をするのに一苦労することが多い。それほど遠くなくても、扉や作り付けの家具が邪魔してきれいに配線できないというケースもある。また、デスクトップパソコンのLAN配線がなくなれば便利だと思わないだろうか。

無線LAN内蔵ルーターを導入したら、次は「無線LANコンバーター」をオススメする。無線LANコンバーターを使えば、デスクトップパソコンやゲーム機などの、有線LANを使ったネット対応機を無線LAN化できるので、面倒なLAN配線が必要なくなる。ただし、ゲームなどそれほど高速回線を必要と



家電やデスクトップをワイヤレス化する場合の使用例。
高速な通信が必要な802.11aとgが同時に使える無線LAN内蔵ルーターを選ぶ。

しない場合は問題ないが、ストリーミングを利用する場合には注意が必要だ。802.11aにしろgにしろ、ストリーミングとパソコンでのインターネット利用を同時に無線LANでまかなうには、

やや帯域が不足する可能性があるからだ。そんなときは、無線LAN内蔵ルーターに802.11aとgが同時に使える機種を選ぶのがコツだ。

GW-EN11X

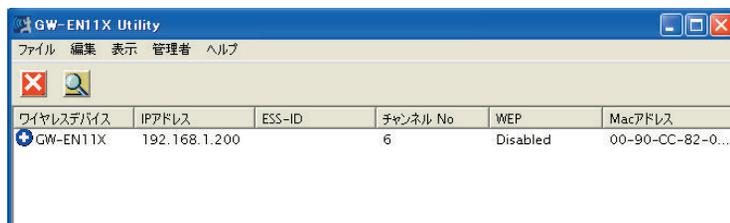
プラネックス

URL <http://www.planex.co.jp/product/bwave/gwen11x.shtml>

実売価格：7,980円

GW-EN11Xは、コンパクトサイズの802.11b対応無線LANコンバーターだ。有線LANしかない機器類が無線で使えるようになるので、配線が不要になるのがメリットだ。残念ながら802.11b

にしか対応していないので、用途はゲームなどの、高速通信が必要ないところに限られるだろう。また、設定画面にも少しくせがあってわかりづらいので、マニュアルを参照して設定しよう。



設定ユーティリティの画面。IPアドレスを設定したら、ウェブブラウザで無線LAN機能を設定する。



アンテナ内蔵で非常にコンパクト。置き場所は選ばない。

PCWA-DE80

ソニー

URL <http://www.sony.jp/products/Consumer/wireless/products/>

実売価格：19,800円

PCWA-DE80は、802.11a/b/gに対応したワイヤレスLANコンバーターだ。802.11aにも対応しているので、ストリーミングなどにも対応可能になっている。無線LAN高速化技術である「Super A/G」にもバージョンアップで対応する予定だ。筐体はルーターと同様のセパレート方式なので、アンテナ部分を電波の届きやすい場所に設置できる。



ルーターより一回り小さいデザインだ。無線LAN部とはケーブルで接続する。

詳細設定の画面。初期状態では、DHCPが有効になっているので、ウェブ設定も容易だ。

無線LAN対応ブロードバンドルーター詳細比較表

型番	WN-APG/BBR	WHR2-A54G54	WRV54G-JP	CG-WLBARGP	PCWA-AR800 PCWA-C800S	Aterm WR7600H ワイヤレスセット(TE)	
メーカー	アイ・オー・データ機器	バッファロー	リンクシス	コレガ	SONY	NEC	
無線LAN	IEEE802.11a		x	x			
	IEEE802.11b/g						
	a/b/g同時利用		x	x	x		
	高速化技術	x	フレームバースト	x	x	SuperA/Gモード 1	Super A/Gモード 1
	電波出力レベル制御	x		x	x	x	x
	WEP暗号化	64 / 128ビット	64 / 128ビット	64 / 128ビット	64 / 128ビット	64 / 128ビット	64 / 128 / 152ビット
	WEPキー設定	文字列 / 16進	文字列 / 16進	文字列 / 16進	文字列 / 16進	文字列 / 16進	文字列 / 16進
	AES暗号化			x	x	x	
	WPAセキュリティ			2	x	WPA / WPA-PSK	
	IEEE802.1x 認証		x		x		x
	SSID非通知機能						
	MACアドレス制限						
無線間通信禁止			x	x	x	x	
無線-LAN間通信禁止		x	x		x	x	
その他	ルーター機能停止可	A.O.S.S対応(予定) WDSモード(AP間通信)	VPNトンネル(IPsec)	-	-	ワイヤレスLAN中継機能	
有線LAN	LANポート	100BASE-T x 2	100BASE-TX x 4	100BASE-TX x 4	100BASE-TX x 2	100BASE-TX x 4	
	WANポート	100BASE-TX x 1	100BASE-TX x 1	100BASE-TX x 1	100BASE-TX x 1	100BASE-TX x 1	

型番	WN-APG/BBR	WHR2-A54G54	WRV54G-JP	CG-WLBARGP	PCWA-AR800 PCWA-C800S	Aterm WR7600H ワイヤレスセット(TE)
メーカー	アイ・オー・データ機器	バッファロー	リンクシス	コレガ	SONY	NEC
ルーター	ルーティングプロトコル	静的 / RIP1 / RIP2	静的 / RIP1 / RIP2	静的 / RIP1	静的	静的
	ローカルルーター			x	x	
	PPPoE					
	PPPoE マルチセッション			2		x
	ダイレクトPPPoE	x	x	x		x
	DHCPクライアント(WAN)					
	DHCPサーバー(LAN)					
	パケットフィルター					x
	コンテンツフィルター		x			
	静的IPマスカレード					x
	ファイアウォール機能	x			(DoS)	x
	SP(スタートアップパケットインベクション)		x		x	x
	ダイナミックDNS自動更新		x			x
	DMZ					x
	簡単ゲーム対応		x	x		x
	複数固定IPアドレス対応			x 1	x	x
	UPnP					
	NTPクライアント				x	
NTPサーバー	x	x	x	x	x	
VPNパススルー		PPTP / IPsec	PPTP / IPsec	PPTP / IPsec	PPTP / IPsec	PPTP / IPsec
SYNLOG	x	x		x	x	x
SNMP	x	x		x	x	x
ルーター設定方法	ウェブ	ウェブ	ウェブ	ウェブ	ウェブ	ウェブ / B/G/Gウェザード
外形寸法(幅 x 高さ x 奥行きmm)	38 x 120 x 171	38 x 174 x 140	199 x 174 x 32	27 x 105.5 x 146	200 x 69 x 32	25 x 157 x 215
重量	約310g	384g	約570g	362g(アダプター除く)	約340g	約0.6g
電源	DC 5V	AC100V 50/60Hz	AC100-120V	DC12V	AC100-240V	AC100V 50/60Hz
消費電力	最大10.7W	最大8.25W	最大8W	5.4W	約5W	最大8W

1 バージョンアップで対応予定 2 2月のバージョンアップで対応予定



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp